

平成 22 年度 自己点検・評価書

平成 23 年 3 月

佐賀大学

保健管理センター

I. 日常業務である保健管理センター活動について

平成 22 年度における保健管理センターの日常業務に関して、その活動報告および自己評価を行う。
まず、本庄キャンパスにおける日常業務の活動報告および自己評価を行う。

1. 定期健康診断：

新入生 1,220 名中 1,215 名 (99.6%) が定期健康診断を受けた。在学生の 2 年生は 1,227 名中 1,006 名 (82.0%)、3 年生は 1,285 名中 1,140 名 (88.7%)、4 年生は 1,264 名中 1,054 名 (83.5%)、それ以降の学生は 460 名中 193 名 (42.0%)、大学院・研究生などは 1,000 名中 691 名 (69.1%) であり、総計 6,456 名中 5,301 名 (82.1%) であった。

前年度と比較して、本年度は健診時期を終日とし、期間を短縮したためか、受診率がやや低下していた。

2. 新入生健康診断：

新入生における現症または所見のある者の中で、頻度の高い疾患および状態像は、肥満 (BMI 30 以上) が 27 名、やせ (BMI 18 未満) が 101 名、アトピー性皮膚炎が 42 名、アレルギー鼻炎が 10 名、尿蛋白・潜血陽性 25 名、高血圧傾向 22 名、バセドウ病・甲状腺腫 8 名、心雑音 3 名、などであった。心電図検査結果では、不完全右脚ブロックが 14 名、ST-T 異常が 23 名、平低 T・陰性 T が 10 名、完全右脚ブロックが 7 名、左軸偏位 4 名、Brugada 型 2 名、WPW 症候群 9 名、心室性期外収縮 3 名、洞性頻脈が 2 名みられた。

3. 新入生健康調査：

心理面のスクリーニングを行うために、本年度は新入生、卒業予定学生 (学部学生) および大学院生へ「一般健康調査票 (CMHQ)」 「College Mental Health Questionnaire」を配布した。それぞれの結果のまとめを以下に提示する。

新入生：回収率は、1,222 名中 1,205 名 (98.6%) であり、昨年同様に高かった。CMHQ のスコアが 15 点以上 (ストレス過剰の可能性) の学生は 242 名 (20.0%) であった。それらの学生の中で、201 名 (83.1%) に構造化面接 Mini-International Neuropsychiatric Interview (MINI) を施行した。頻度の高い診断としては、大うつ病エピソード 5 名、強迫性障害 5 名、全般性不安障害 3 名、躁病エピソード 2 名、パニック障害 2 名、広場恐怖 1 名、社会恐怖 (社会不安性障害) 4 名、その他 (過敏性大腸炎、身体表現性障害、睡眠障害、発達障害) 6 名、などが認められた。

卒業予定学生 (学部学生)：回収率は、1,709 名中 1,236 名 (72.3%) であった (昨年からは開始し、本年は大幅に回収率が上がった、昨年：57.3%)。CMHQ のスコアが 15 点以上 (ストレス過剰の可能性) の学生は 415 名 (33.6%) であった。それらの学生の中で、253 名 (61.0%) に構造化面接 Mini-International Neuropsychiatric Interview (MINI) を施行した。この昨年の面接率は、16.2% であった。頻度の高い診断としては、大うつ病エピソード 8 名、強迫性障害 9 名、パニック障害 7 名、躁病エピソード 3 名、社会恐怖 2 名、全般性不安障害 5 名、その他 (過敏性大腸炎、身体表現性障害、睡眠障害、発達障害) 9 名、などが認められた。

大学院生：回収率は、698 名中 511 名 (73.2%) であった (昨年は 63.5%)。CMHQ のスコアが 15 点以上 (ストレス過剰の可能性) の学生は 122 名 (23.9%) であった。それらの学生の中で、79 名 (64.8%)

に構造化面接 Mini-International Neuropsychiatric Interview (MINI)を施行した（昨年は 28.6%）。頻度の高い診断としては、大うつ病エピソード 6 名、強迫性障害 7 名、パニック障害 3 名、躁病エピソード 3 名、全般性不安障害 6 名、社会恐怖（社会不安性障害） 1 名、その他（過敏性大腸炎、身体表現性障害、睡眠障害、発達障害） 2 名、などが認められた。

全般的にみると、ストレスの度合は、卒業予定者（学部学生） 33.6% > 大学院生 23.9% > 新入生 20.1% の順に高かった。

4. 外国人留学生特別健康診断：

前期と後期の対象者はそれぞれ、292 名、101 名であったが、受診者は前期 207 名（70.9%）、後期 87 名（86.1%）であった。異常所見または症状のある者について、前期では「やせ 25 名」「肥満 4 名」、「喘息 1 名」「胃炎・十二指腸潰瘍 3 名」「高血圧傾向 1 名」「肝炎 3 名」などであり、いずれも生活習慣やストレスに関するものであった。後期でも、同様の傾向が認められた。

血液検査で異常を示す者では、前期では肝機能障害（脂肪肝）、HDL コレステロール低値、高脂血症、B 型肝炎ウイルス陽性、高尿酸血症、貧血、後期では高脂血症、HDL コレステロール低値、肝機能障害（脂肪肝）、B 型肝炎ウイルス陽性、貧血、高尿酸血症が認められた。

心電図では、前期では「左軸偏位 1 名」「ST 低下 1 名」「上室性期外収縮 1 名」など、後期では「完全右脚ブロック 2 名」「心室性期外収縮 1 名」などがみられた。

前期に異常が認められた留学生のフォローは 24 名中、改善が 8 名、不変が 7 名、悪化 9 名であった

5. 外国人留学生保健管理センター使用状況

留学生 293 名中 139 名が保健管理センターを利用していた。利用者の延数は 247 名であった。利用の目的は、内科系疾患としては、呼吸器症状（風邪様症状）、その他の内科症状、消化器症状が多く、外科系疾患としては、擦過傷・切傷、骨・関節筋肉痛などが多かった。専門の医療機関を紹介したのは、247 名中 73 名であった。

6. スポーツ学生健康診断

対象者 727 名中 566 名（77.9%）の受診者があった。異常所見としては心電図検査で 26 名が該当したが、経過観察とした。医療機関に通院中の学生が 10 名いたが、スポーツを行う上で、大きな支障が生じることはなかった。今年度はアルコールによる死亡事故もあり、受診者全員にアルコールパッチテストを実施した。

7. 健康相談者数

内科系では 354 名（延数 442 名）、外科系では 72 名（延数 82 名）、心理系では 197 名（延数 791 名）、その他 148 名（延数 178 名）、総計 771 名（延数 1,493 名）の健康相談があった。医療機関の紹介を行った件数は 465 名であった。

8. 健康診断証明書発行状況

1 年間を通じて、5,768 通の健康診断証明書を発行した。発行件数が多い月は、3 月（2,461 件）、6 月（839 件）、2 月（779 件）、1 月（510 件）、の順であった。3 月の発行は、就職エントリー用の診断証明書が主であった。

9. 麻疹抗体検査実施状況

麻疹の流行に伴う大学等の教育実習生の対する指導に基づき、当大学においても感染拡大・防止のための教育実習生等を対象に麻疹の罹患歴・麻疹ワクチン接種状況の問診と抗体検査を実施することとした。第1回の実施では256名が検査を受け、第2回の実施では28名が検査を受けた。抗体値が低い学生に対しては、個別に医療機関を紹介し、ワクチン接種を勧奨した。

10. 保健管理センター利用状況

保健管理センターの利用件数は7,200件（学生5,997件・職員1,203件）であった。昨年度は新型インフルエンザが流行したが、今年度は、6月に百日咳の流行がみられた。7,200件という利用件数は、本大学の保健管理センターが学生および職員の保健管理および治療において十分な役割を果たしていると考えられる。

次に、鍋島キャンパスにおける日常業務の活動報告および自己評価を行う。

【現状分析】

1. 定期健康診断

新入生160名中名（100.0%）が定期健康診断を受けた。在学生の医学科全体としては601名中585名（97.3%）、看護学科は259名中259名（100.0%）、学部学生の総計は860名中844名（98.1%）であった。

2. 新入生健康診断

新入生における現症または所見のある者の中で、頻度の高い疾患および状態像は、気管支喘息7名、アレルギー体質が4名、やせ（BMI18.5%未満）が6名などであった。心電図検査結果では、ST-T異常が4名、その他完全右脚ブロック、不完全右脚ブロック、洞性徐脈などが各1名ずつ認められた。

3. ワクチン接種状況

ムプス42人、麻疹29人・風疹15人・水痘7人がワクチン接種を受けた。未接種者については、再度連絡を行い、ワクチン接種を勧奨する。

B型肝炎ワクチンは、医学科4年・看護学科2年の152人が接種を受け、144人が陽転した。陽転しなかった学生については、1月・2月に追加接種を行い、4月に確認検査を行う。インフルエンザワクチン接種は、566人が接種を受けた。

4. 健康相談（メンタルスクリーニング）

H20年度に比較し社会的問題行動をとる学生はいなかった。

今年度は実習中の医学科5年・看護学科3年の学生で、実習途中人間関係の未熟さによるトラブル等で、ひきこもる学生などが数名認められ、学生サービス課、チューター、保健管理センター所長と連携し、学生の対応を行った。

今年度の実習生のメンタルヘルス課題を受け、12月15日より2月10日まで、学生カウンセラーの協力を得て、医学科4年生の実習前のスクリーニング面接を99人全員に実施した。面談時期が進級決定前の不安の多い時期でもあり、スクリーニングを行うとともに、全員に相談機関を周知する機会になっ

た。

H18年9月より職員に対する産業カウンセラーによるスクリーニング面接を実施している。H23年1月～3月は、看護部の希望者や休職の多い部署にもスクリーニング面接を実施した。3月10日時点で産業カウンセラーのカウンセリング131件、スクリーニング面接は197件であった。

5. 健康相談者数

内科系では510名（延数515名）、外科系では53名（延数53名）、心理系では17名（延数21名）、その他48名（延数48名）、総計628名（延数637名）の健康相談があった。医療機関の紹介を行った件数は206名であった。

6. 健康診断証明書発行状況

1年間を通じて、通の健康診断証明書を発行した。発行件数が多い月は、1月（225件）、3月（44件）の順であった。1月は免疫の記録を卒業生全員に配布した。医学部学生の場合、就職先に提出する小児感染症・B型肝炎ワクチン接種・ツベルクリン反応検査などの免疫の記録に関する診断書発行件数が多い。また、今年度は百日咳・インフルエンザ発生により、欠席届に添付するための診断書の発行が増加した。

7. 保健管理センター利用状況

保健管理センターの利用件数は6776件（学生4132件・職員2644件）であった。今年度は、4月の新入生歓迎の時期から5月下旬にかけて百日咳が流行した。学生サービス課・感染制御部・社会医学講座・本庄保健管理センタースタッフの協力を得て、6月中旬には終息傾向となった。12月下旬より、インフルエンザの発生が認められ、1月下旬にピークがありその後は急激な発生報告の増加等は認めなかった。1月17日～31日までで、28名のインフルエンザ報告があった。特に病棟実習の学生の対応については、感染制御部と相談し対応を統一、院内感染防止に努め、週に1回医学部学生・職員の発生報告を行った。

職員の利用者が昨年より1000件以上減少しているのは、インフルエンザワクチン接種が、昨年は新型と季節性の2回の接種が必要であったものが、今年度は1回接種で良かったためである。

以上をまとめると、保健管理センターの利用状況に関しては、本庄および鍋島キャンパスのいずれも十分に学生および教職員が利用しており、また定期健康診断などの健診業務を通じて、大学における健康管理および安全管理に十分寄与していると思われる。

Ⅱ－Ⅰ 教育に関する状況と自己評価

保健管理センターの教員3名はそれぞれ講義および大学院生をもち、教育においても大学において貢献している。その具体的な内容を以下に示す。

本庄キャンパスに勤務する佐藤と木道については以下の通りである。

講義：学内：健康科学・前期（佐藤）、健康科学・後期（木道）

マラソン学（心電図の読み方等）（佐藤）、理工学部（機能物質科学）フレッシュマンセミナー（佐藤）

医学部・精神医学（コンサルテーション・リエゾン精神医学）（佐藤）、医学部医科学専攻・修士課程・精神心理学特論（佐藤）、医学部医科学専攻・修士課程・健康スポーツ学特論「ストレスと運動」（佐藤）
同上「循環器疾患と運動」（木道）、漢方医学（メンタルヘルスと漢方薬）（佐藤）、脳とこころ（3回の講義）（佐藤）

学外：西九州大学大学院・精神保健福祉特論（佐藤、コンソーシアム）、放送大学（専門科目：心理と教育 | こころアレルギー）（佐藤、コンソーシアム）

大学院生等指導（佐藤）：

大学院医学系研究科修士課程医科学専攻2年生	伊藤奈々（卒業決定）
大学院医学系研究科修士課程医科学専攻2年生	鳥辺めぐみ（卒業決定）
大学院医学系研究科博士課程医科学専攻1年生	濱田維子
大学院医学系研究科博士課程医科学専攻3年生	楊 春燕
大学院医学系研究科博士課程医科学専攻4年生	郭 偉（学位取得）
大学院医学系研究科博士課程医科学専攻4年生	岩本利恵
大学院医学系研究科博士課程医科学専攻4年生	永松美雪（学位取得）

鍋島キャンパスに勤務する尾崎は以下の通りである。

実習の安全管理：感染予防を中心に、医学科4年 臨床入門、2010. 1. 25, 臨床講堂 3113.

内分泌性高血圧 医学科3年 Unit4 PBL 講義、2010. 2. 8

主題科目 ニュートリション&フィットネス講義（後期）、医学部1年、2010. 1. 27.

主題科目 ニュートリション&フィットネス講義、医学部1年、2010. 4. 21 & 2010. 11. 10

医学生健康管理、医学科3年 地域医療 Unit 1 PBL 講義、2010. 4. 15.

PBL チューター、Unit2 消化器 医学科3年 2010. 5. 25&28, 2010. 6. 8&11

大学院生等指導：

大学院医学系研究科博士課程医科学専攻3年 夏 京合

以上から、健康科学および内科、精神科領域の講義を担当し、さらには大学院生の指導を担当し、卒業生を輩出していることから、教育に関しても、十分な貢献を果たしていると考えている。

Ⅲ－Ⅰ 研究に関する状況と自己評価

研究に関しては、本来の業務に追われて、十分な研究が行われているとはいえないものの、研究報告および学会発表は、ある程度の業績を提出していると自負している。以下に、研究報告および学会発表の内容を提示する。

本庄キャンパス（佐藤・木道）：

〔著書・総説〕

1. 佐藤 武：V. うつ・不安と physical comorbidity 6. 呼吸器疾患. 脳とこころのプライマリ・ケア（監修：日野原重明、宮岡 等）.（株）シナジー出版事業部、東京、 pp.310-316, 2010.
2. 佐藤 武：嗜癮行動障害 5. インターネット依存（携帯電話依存）. 脳とこころのプライマリ・ケア（監修：日野原重明、宮岡 等）.（株）シナジー出版事業部、東京 pp.432-441, 2011.
3. 佐藤 武：パーソナリティ障害～ナルシズム、こころの発達障害、こころアレルギーの関係～. CAMPUS HEALTH 47(2):60-65, 2010.
4. 佐藤 武：最近のうつ病の特徴とその対応. CAMPUS HEALTH 48（印刷中）
5. 佐藤 武：精神科救急への対応. CAMPUS HEALTH 48（印刷中）
6. 佐藤 武：事例集：留学生における精神科救急の2例. CAMPUS HEALTH 48（印刷中）
7. 佐藤 武、郭 偉、伊藤奈々：慢性疼痛とうつ病. 総合臨床 59(5):1268-1272, 2010.
8. 佐藤 武：I. 最近の大学生の精神保健 最近の動向とトピック. 精神科 17(4):325-329, 2010.
9. 佐藤 武：「五月病を考える」成熟の観点から考える. 精神科 18（印刷中）
10. 佐藤 武：自律訓練法. 専門医をめざす人の精神医学 第3版、医学書院（印刷中）
11. 国立大学法人保健管理施設協議会メンタルヘルス委員会・自殺問題検討ワーキンググループ：大学生の自殺対策ガイドライン2010. pp. 1-17, 2011.
12. 佐賀大学（当番大学）：第40回九州地区大学保健管理研究協議会報告書. pp.1-125, 2011.

〔研究・症例報告〕

1. Guo W, Kawano H, Piao L, Itoh N, Node K, and Sato T. Effects of aerobic exercise on lipid profiles and high molecular weight adiponectin in Japanese Workers. Intern Med 50:389-95, 2011.
2. Nagamatsu M, Sato T, Nakagawa A, Saito H: HIV prevention through extended education encompassing students, parents, and teachers in Japan. Environmental Health and Preventive Medicine p.1-13, 2011(EPub).
3. Yang C, Miyata M, Sato T: Why are college students apt to become Internet Addiction? A cross-national study in Japan and China. 第31回全国大学メンタルヘルス研究会報告書 pp.73-80, 2010.
4. Yamawaki N, Sato T, Swindler S: Strategies for changing attitudes toward mental health services - A cross-cultural study -. 第31回全国大学メンタルヘルス研究会報告書 pp.26-31, 2010.
5. Iwamoto R, Sato T: Increased self-transcendence in patients with intractable diseases.

Psychiatry Clin Neurosci (resubmitted according to three reviewers' comments)

6. 兒玉 幸子、佐藤 武、新地 浩一：大学新入生のメンタルヘルスとその関連要因. CAMPUS HEALTH 47(29):187-192, 2010.
7. 木道圭子：佐賀大学及び佐賀県における「新型インフルエンザ(H1N1/pdm)2009」の総括 第48回全国大学保健管理研究集会報告書 CAMPUS HEALTH 48(1) (印刷中)
8. 佐藤 武：ウォーキングが有効であったうつ病の1例. 第32回全国大学メンタルヘルス研究会報告書 (印刷中).
9. 楊 春燕、佐藤 武：大学生における Mobile Phone Addiction に関する研究—日本と中国の比較—. 第32回全国大学メンタルヘルス研究会報告書 (印刷中).
10. 安宅勝弘、影山任佐、斎藤憲司、佐藤 武、粥川裕平：大学院における休学・退学・留年学生に関する調査. 第32回全国大学メンタルヘルス研究会報告書 (印刷中).
11. Nagamatsu M, Sato T, Nakagawa A, Saito H: Factors influencing the attitude toward acceptance of sexual behavior among early teenagers in Japan. J Adolescent Health (in submission)
12. Yang C, Sato T: What makes college students susceptible to internet addiction? A cross-national study in Japan and China. Cyber Psychology & Behavior (in submission).

[その他]

1. 佐藤 武：書評「スポーツ精神医学」. 総合病院精神医学 21:385, 2009. (昨年分)

[学会発表]

1. Sato T, Guo Wei, Itoh N, Iwamoto R: Short-term effects of aerobic exercise program on depressive symptoms among Japanese healthy subjects. The 14th Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting (Brisbane, Australia), Oct 28-30, 2010.
2. 郭 偉、伊藤奈々、佐藤 武：血中高分子量アディポネクチンに対する長期間エアロビクス運動による効果. 第3回日本肥満症治療学会学術集会. 平成22年9月10日～11日、東京.
3. 伊藤奈々、郭 偉、佐藤 武、井上伸一：エアロビクス運動が血清アルドステロン値に及ぼす影響—高齢者を対象とした短期間の運動効果—. 第3回日本肥満症治療学会学術集会. 平成22年9月10日～11日、東京.
4. 木道圭子、尾崎岩太、福島雅子、永渕久子、武富弥栄子、佐藤武：佐賀大学及び佐賀県における「新型インフルエンザ(H1N1/pdm)2009」の総括 第48回全国大学保健管理研究集会、幕張メッセ国際会議場、平成22年10月20日、21日、千葉.
5. 佐藤 武：シンポジウム「最近のうつ病の特徴とその対応」. 第48回全国大学保健管理研究集会、幕張メッセ国際会議場、平成22年10月20日～21日、千葉.
6. 楊 春燕、佐藤 武：大学生における Mobile Phone Addiction に関する研究—日本と中国の比較—. 第32回全国大学メンタルヘルス研究会、平成23年1月25日～26日、東京.
7. 佐藤 武：事例検討：ウォーキングが有効であったうつ病の1例. 第32回全国大学メンタルヘルス研究会、平成23年1月25日～26日、東京.
8. 佐藤 武：教育講演「運動と心の健康」. 第12回日本健康支援学会学術集会、平成23年2月19日～20日、福岡.
9. 佐藤 武：シンポジウム「大学生のメンタルヘルス：諸外国との比較からみた日本の問題」. 第30

回日本社会精神医学会、平成 23 年 3 月 4 日～5 日、奈良。

10. 佐藤 武：シンポジウム「自殺予防のための具体的方策」。第 13 回フィジカルヘルス・フォーラム。大阪大学、平成 23 年 3 月 17 日～18 日、大阪。

[司会など]

1. 佐藤 武：第 3 部会：危機対応（自殺予防・過量服薬など）。平成 22 年度九州地区大学メンタルヘルス研究協議会、平成 22 年 11 月 11 日～12 日、沖縄。

鍋島キャンパス（尾崎）：

研究報告

1. Ario K, Mizuta T, Eguchi Y, Kawaguchi Y, Oza N, Akiyama T, Iwane S, Takahashi H, Yasutake T, Ozaki I, Fujimoto K. Presence of esophageal varices is a risk factor for non-hemorrhagic death of hepatocellular carcinoma patients treated with radiofrequency ablation. *Hepatogastroenterology*. 2010 ; 57(3): 501-6.
2. Kitajima Y, Eguchi Y, Ishibashi E, Nakashita S, Aoki S, Toda S, Mizuta T, Ozaki I, Ono N, Eguchi T, Arai K, Iwakiri R, Fujimoto K. Age-related fat deposition in multifidus muscle could be a marker for nonalcoholic fatty liver disease. *J Gastroenterol*. 2010 Feb;45(2):218-24.
3. Mizuta T, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Takahashi H, Ario K, Akiyama T, Oza N, Otsuka T, Kuwashiro T, Yoshimura T, Hisatomi A, Ozaki I. Whole-body insulin sensitivity index is a highly specific predictive marker for virological response to peginterferon plus ribavirin therapy in chronic hepatitis C patients with genotype 1b and high viral load. *Dig Dis Sci*. 2010; 55(1):183-9.
4. Nakashima M, Hamajima H, Xia J, Iwane S, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Mizuta T, Fujimoto K, Ozaki I, Matsuhashi S. Regulation of tumor suppressor PDCD4 by novel protein kinase C isoforms. *BBA Mol Cell Res* 2010;1803(9):1020-7.
5. Takahashi H, Ono N, Eguchi Y, Eguchi T, Kitajima Y, Kawaguchi Y, Nakashita S, Ozaki I, Mizuta T, Toda S, Kudo S, Miyoshi A, Miyazaki K, Fujimoto K. Evaluation of acoustic radiation force impulse elastography for fibrosis staging of chronic liver disease: a pilot study. *Liver Int* 2010; 30(4):538-45.
6. Takahashi H, Mizuta T, Kawazoe S, Eguchi Y, Kawaguchi Y, Otuka T, Oeda S, Ario K, Iwane S, Akiyama T, Ozaki I, Fujimoto K. Efficacy and safety of radiofrequency ablation for elderly hepatocellular carcinoma patients. *Hepatol Res*. 2010; 40(10): 997-1005.

[症例報告]

1. 桑代卓也, 河口康典, 大枝敏, 大座紀子, 高橋宏和, 江口有一郎, 尾崎岩太, 水田敏彦. シクロスポリンの併用が有効と考えられた急性発症重症型自己免疫性肝炎の 1 例. *肝臓* 2010; 51: 549-556.
2. 高橋宏和, 江口有一郎, 上村春子, 井上卓也, 大座紀子, 桑代卓也, 河口康典, 井手康史, 水田敏彦, 尾崎岩太, 副島真一郎, 藤本一眞. ペグインターフェロン□ 2a 単独投与中に多型紅斑型薬疹を生じた C 型慢性肝炎に対し天然型インターフェロン□製剤の投与によりウイルス排除が得られた 1 例. *肝臓* 2010: 51: 112-118.

[学会発表]

1. Ishibashi E, Eguchi Y, Mizuta T, Kitajima Y, Kawaguchi Y, Kuwashiro T, Y Matsunaga, Oda Y, Ozaki I, Anzai K, Iwakiri R, Ono N, Eguchi T, Koizumi S, Fujimoto K. Excessive visceral fat accumulation plays both roles as the first and second hit in the pathogenesis and progression of nonalcoholic fatty liver disease. 45th Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2010. 4.14-18 Vienna, Austria *J Hepatol*, 52 (Supplement No 1), S144 (P-346), 2010
2. Hamajima H, Ozaki I, Iwane S, Takahashi H, Xia J, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Matsuhashi S, Mizuta T, Fujimoto K. Regulation of tumor suppressor programmed cell death 4 (PDCD4) by protein kinase C isoforms in human hepatocellular carcinoma cells. 4th ILCA Annual Conference 2010. 9.10-12 Montreal, Canada Final programme & Book of Abstracts, p35 (P-056), 2010
3. Kuwashiro T, Isoda H, Oeda S, Iwane S, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Ozaki I, Mizuta T. Differences in survival prognosis in patients with hepatocellular carcinoma according to treatment era. 4th ILCA Annual Conference 2010. 9.10-12 Montreal, Canada Final programme & Book of Abstracts, p69 (P-179), 2010
4. Oeda S, Isoda H, Kuwashiro T, Iwane S, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Ozaki I, Mizuta T. Good survival prognosis in overweight hepatocellular carcinoma patients. 4th ILCA Annual Conference 2010. 9.10-12 Montreal, Canada Final programme & Book of Abstracts, p71 (P-185), 2010
5. Ozaki I, Hamajima H, Xia J, Takahashi H, Iwane S, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Matsuhashi S, Mizuta T. Novel protein kinase C (PKC) isoforms PKC- δ and ϵ promote degradation of tumor suppressor programmed cell death 4 (PDCD4) in human hepatoma cells. AASLD 61th The Liver Meeting 2010. 2010.10.29-11.2 Boston, MA. Final program, 155 (#569), 2010
6. Kawaguchi Y, Mizuta T, Isoda H, Kuwashiro T, Oeda S, Iwane S, Takahashi H, Eguchi Y, Ozaki I. Whole-body insulin sensitivity is strongly associated with serum alpha-fetoprotein levels in patients with chronic hepatitis C. AASLD 61th The Liver Meeting 2010. 2010.10.29-11.2 Boston, MA. Final program, p174 (#748), 2010
7. Mizuta T, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Takahashi H, Iwane S, Kuwashiro T, Oeda S, Isoda H, Ozaki I. Visceral adiposity influences the antiviral effect of pegylated interferon plus ribavirin treatment for refractory chronic hepatitis C. AASLD 61th The Liver Meeting 2010. 2010.10.29-11.2 Boston, MA. Final program, p196 (#926), 2010
8. Mizuta T, Kawaguchi Y, Eguchi E, Takahashi H, Iwane S, Kuwashiro T, Oeda S, Isoda H, Ozaki I. An insulin resistance (IR)-oriented intervention program for chronic hepatitis C (CHC) patients can improve the virologic response to pegylated interferon (PEG-IFN) plus ribavirin (RBV) therapy: a prospective study. AASLD 61th The Liver Meeting 2010. 2010.10.29-11.2 Boston, MA. Final program, p199 (#949), 2010
9. Kawazoe S, Nakashita S, Akiyama T, Otsuka T, Fujimoto M, Ozaki I, Mizuta T. Efficacy of transcatheter arterial chemoembolization therapy using CDDP in iodinated oil for treatment of hepatocellular carcinoma: comparison with epirubicin regimens. 18th UEGW2010. 2010.10.23-27 Barcelona, Spain. *Gut* 59 supplement III, A209 (P0499), 2010

10. Kuwashiro T, Mizuta T, Isoda H, Oeda S, Iwane S, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Ozaki I, Fujimoto K. Insulin resistance is a main exacerbated factor of health-related quality of life (QOL) in chronic hepatitis C patients. 18thUEGW2010. 2010.10.23-27 Barcelona, Spain. Gut 59 supplement III, A323 (P1077), 2010
11. Eguchi Y, Mizuta T, Kawaguchi Y, Ozaki I, Ono N, Eguchi T, Fujimoto K. Visceral fat accumulation is the first and second hit pathogenesis for development of nonalcoholic fatty liver disease. The 2nd International Forum of the 96th Annual Meeting of the Japanese Society of Gastroenterology 2010. 4.23-24 Niigata
12. 木道圭子, 尾崎岩太, 福島雅子, 永渕久子, 武富弥栄子, 佐藤武. 佐賀大学及び佐賀県における「新型インフルエンザ(H1N1pdm2009)」の総括. 第48回全国大学保健管理研究集会 2010.10.20-21 (千葉) Campus Health 2010; 47(3): 89.
13. 河口康典, 水田敏彦, 江口有一郎, 尾崎岩太. Metabolic diseaseとしてのC型肝炎に対する生活習慣への介入効果. 第107回日本内科学会総会 2010.4.9-11 東京. 日本内科学会雑誌 99 supplement: 25(124), 2010
14. 大座紀子, 水田敏彦, 藤本一眞, 石橋絵理子, 北島陽一郎, 桑代卓也, 大枝敏, 高橋宏和, 河口康典, 小野尚文, 江口尚久, 尾崎岩太, 江口有一郎.
非アルコール性脂肪性肝疾患患者に対する食事運動療法前後の鉄代謝の変動. 第96回日本消化器病学会総会 2010.4.22-24 新潟. 日本消化器病学会雑誌 107 supplement: A227(085), 2010
15. 水田敏彦, 河口康典, 江口有一郎, 大座紀子, 大枝敏, 桑代卓也, 尾崎岩太. Insulin resistance-oriented intervention programにより難治性C型慢性肝炎のPEG-IFN+ribavirin治療効果は改善する. 第46回日本肝臓学会総会 2010.5.27-28 山形. 肝臓 51suppl(1):A158(0-77), 2010
16. 磯田広史, 江口有一郎, 河口康典, 水田敏彦, 尾崎岩太, 江口尚久, 小野尚文, 藤本一眞. PEG-IFN/Ribavirin併用療法の副作用の推移—PEG-IFN α 2aとPEG-IFN α 2bの比較. 第46回日本肝臓学会総会 2010.5.27-28 山形. 肝臓 51suppl(1):A236(0-233), 2010
17. 江口有一郎, 水田敏彦, 石橋絵理子, 北島陽一郎, 堀江弘子, 高橋宏和, 副島修, 吉岡経明, 松永諭, 河口康典, 尾崎岩太, 小野尚文, 江口尚久, 小泉俊三, 藤本一眞. トランスアミナーゼ上昇を特定健診の質問表から抽出する—「体重増加」・「早食い」は非アルコール性脂肪性肝疾患を疑う. 第46回日本肝臓学会総会 2010.5.27-28 山形. 肝臓 51suppl(1):A389(P-240), 2010
18. 副島修, 江口有一郎, 水田敏彦, 堀江弘子, 北島陽一郎, 黒木茂高, 尾崎岩太, 安西慶三, 小野尚文, 江口尚久, 小田康友, 江村正, 小泉俊三, 藤本一眞. 内臓肥満に影響する食習慣—男性は「早食い」, 女性は「早食い・ドカ食い・ながら食い」. 第31回日本肥満学会 2009.10.1-2 前橋. 肥満研究 16 Supplement:136(0-086), 2010
19. 磯田広史, 江口有一郎, 水田敏彦, 堀江弘子, 北島陽一郎, 黒木茂高, 尾崎岩太, 安西慶三, 小野尚文, 江口尚久, 小泉俊三, 藤本一眞. 血清ALT値は血清脂質と内臓脂肪蓄積に影響を受けている. 第31回日本肥満学会 2009.10.1-2 前橋. 肥満研究 16 Supplement:178(P-179), 2010
20. 岩根紳治, 尾崎岩太, 藤本一眞. 細胞接着分子 β 1-インテグリンによる増殖因子のシグナル伝達への関与の解析. 第14回日本肝臓学会大会 2010.10.13-14 横浜. 肝臓 51 Supplement(2):A509(肝W15-5), 2010
21. 北島陽一郎, 江口有一郎, 磯田広史, 石橋絵理子, 大座紀子, 桑代卓也, 大枝敏, 高橋宏和, 河口康典, 水田敏彦, 尾崎岩太, 安西慶三, 小野尚文, 江口尚久, 小泉俊三, 藤本一眞, 角田圭雄. 非

- アルコール性脂肪性肝炎の進展と骨格筋脂肪化との臓器関連. 第14回日本肝臓学会大会 2010. 10. 13-14 横浜. 肝臓 51 Supplement (2):A553(肝P-109), 2010
22. 江口有一郎, 水田敏彦, 北島陽一郎, 石橋絵理子, 大座紀子, 高橋宏和, 桑代卓也, 大枝敏, 河口康典, 尾崎岩太, 安西慶三, 小野尚文, 江口尚久, 藤本一眞, 小泉俊三. 非アルコール性脂肪性肝疾患に対する食事運動療法における臨床検査値の改善に要する時間的差異. 第14回日本肝臓学会大会 2010. 10. 13-14 横浜. 肝臓 51 Supplement (2):A556(肝P-122), 2010
23. 河口康典, 水田敏彦, 桑代卓也, 大枝敏, 大座紀子, 江口有一郎, 尾崎岩太. インスリン感受性良好な難治性C型慢性肝炎(genotype 1bかつ $\geq 5.0 \log \text{IU/ml}$)に対するペグインターフェロン $\alpha 2a$, リバビリン併用療法の効果. 第14回日本肝臓学会大会 2010. 10. 13-14 横浜. 肝臓 51 Supplement (2):A592(肝P-267), 2010
24. 大枝敏, 桑代卓也, 大座紀子, 河口康典, 江口有一郎, 尾崎岩太, 水田敏彦. 「生存年齢」からみた肝細胞癌の予後の検討. 第14回日本肝臓学会大会 2010. 10. 13-14 横浜. 肝臓 51 Supplement (2):A618(肝P-371), 2010
25. 桑代卓也, 大枝敏, 大座紀子, 河口康典, 江口有一郎, 尾崎岩太, 水田敏彦. 時代的変遷からみた肝細胞癌治療と予後の変化. 第14回日本肝臓学会大会 2010. 10. 13-14 横浜. 肝臓 51 Supplement (2):A619(肝P-376), 2010
26. 夏京合, 尾崎岩太, 浜島弘史, 高橋宏和, 岩根紳治, 河口康典, 水田敏彦, 藤本一眞, 松橋幸子. PKC- ϵ ノックダウンによるヒト肝がん細胞の増殖抑制. 第33回日本分子生物学会年会 2010. 12. 7-10 神戸. プログラム 4P-0396
27. 河口康典, 水田敏彦, 江口有一郎, 尾崎岩太. C型慢性肝疾患における生活習慣是正の重要性. 第95回日本消化器病学会九州支部例会(消PD2-3) 2010. 6. 18-19 北九州
28. 大枝敏, 桑代卓也, 大座紀子, 河口康典, 江口有一郎, 尾崎岩太, 水田敏彦. ステロイド先行インターフェロン療法にて良好な治療効果が得られたHCV-RNA陽性自己免疫性肝炎の2症例. 第95回日本消化器病学会九州支部例会(消160) 2010. 6. 18-19 北九州
29. 磯田広史, 江口有一郎, 河口康典, 尾崎岩太, 水田敏彦, 小野尚文, 江口尚久, 藤本一眞. 胃全摘後に発症したNASHの1例. 第95回日本消化器病学会九州支部例会(消167) 2010. 6. 18-19 北九州
30. 樋高秀憲, 桑代卓也, 大枝敏, 大座紀子, 河口康典, 江口有一郎, 尾崎岩太, 水田敏彦, 藤本一眞. ミグリトールにより脂肪肝の改善がみられた2型糖尿病合併脂肪性肝炎の一例. 第95回日本消化器病学会九州支部例会(研50) 2010. 6. 18-19 北九州
31. 井上周, 桑代卓也, 磯田広史, 大枝敏, 岩根紳治, 河口康典, 江口有一郎, 水田敏彦, 尾崎岩太, 藤本一眞. C型急性肝炎の2例. 第290回日本内科学会九州地方会 2010. 8. 28 佐賀
32. 岡田倫明, 小野尚文, 磯田広史, 江口有一郎, 尾崎岩太, 水田敏彦, 江口尚久, 藤本一眞. 胆管空腸吻合術後繰り返す胆管炎に合併した肝炎症性偽腫瘍の一例. 第96回日本消化器病学会九州支部例会 2010. 11. 12-13 沖縄. プログラム・抄録集:p166(専37), 2010
33. 横尾麻耶, 磯田広史, 江口有一郎, 大枝敏, 桑代卓也, 岩根紳治, 河口康典, 水田敏彦, 尾崎岩太, 小野尚文, 江口尚久, 中山真一, 藤本一眞. C型慢性肝炎に対するPeg-IFN+Ribavirin併用療法中に抑うつ状態を呈し, IFN β +Ribavirin併用療法に変更し治療継続できた2症例. 第96回日本消化器病学会九州支部例会 2010. 11. 12-13 沖縄. プログラム・抄録集:p189(研60), 2010

34. 井上佳奈子, 岩根紳治, 磯田広史, 桑代卓也, 大枝敏, 河口康典, 江口有一郎, 尾崎岩太, 水田敏彦. 特異な超音波所見を呈したガス産生菌による肝膿瘍の一例. 第 96 回日本消化器病学会九州支部例会 2010. 11. 12-13 沖縄. プログラム・抄録集: p189 (研 92), 2010

科学研究費補助金など

1. 平成 21 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 「自殺予防教育の一環としての幼年版 Death Education Program」 (研究分担者: 佐藤 武) (継続)
2. 平成 21 年度厚生労働科学研究費 「印刷教材と携帯電話フィードバックシステムを用いた食生活の改善及び運動指導プログラムの開発に関する研究 (21180401) (研究分担者: 佐藤 武) (新規: 3 年計画)
3. 総務省: サガン鳥栖健康増進プログラム推進事業 (サガン鳥栖健康増進プログラム地域協議会会長: 佐藤 武) (予算は 2010 年度、事業は 5 年間).
4. 郭偉・佐藤武 「財団法人博慈会老人病研究所平成 23 年度奨励論文」 受賞.
5. Niwako Yamawaki (Associate Professor: Brigham Young University) 「平成 23 年度日本学術振興会外国人招聘研究者 (長期)」 (受入: 佐藤 武、保健管理センター)
6. 平成 23 年度挑戦的萌芽研究 「非侵襲的検査による Brugada 型心電図の予後予知」 (研究分担者: 佐藤武) (申請).
7. 受託研究 (佐賀県健康福祉本部)
研究題目: C 型肝炎等に関する予防啓発事業 (J100200010) 受託研究費 ¥192, 000

保健管理センターは本来、厚生福利施設ではあるが、上記のように、かなり積極的に研究業績を作り上げ、十分な評価に耐えられるものである。特に、不足という問題はみられない。

Ⅳ－Ⅰ 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価

保健管理センターでは、地域の方々から、講演を依頼されることが多々ある。時間の許す範囲で、できるだけ、フィジカルおよびメンタルに関する社会連携・貢献を果たしている。その内容を以下に列記する。

本庄キャンパス（佐藤・木道）：

講演

1. 木道圭子：高血圧について 健康診断事後措置に関する講演会 佐賀大学医学部臨床大講堂、平成22年10月27日、佐賀。
2. 木道圭子：アルコールの危険性について サークル緊急集会 平成22年3月19日 教養教育運営機構211教室、平成22年3月19日、佐賀。
3. 木道圭子：アルコールの危険性について サークル緊急集会（2）、大学会館2階研修室2、平成22年4月19日、佐賀。
4. 佐藤 武：メンタルヘルスケアについて。佐賀大学農学部、佐賀大学、平成22年4月26日、佐賀。
5. 佐藤 武：日本人はお酒に強いのか？。NBCラジオ、平成22年5月6日、佐賀。
6. 佐藤 武：教職員のメンタルヘルス。県立高志館高校、平成22年6月28日、佐賀。
7. 佐藤 武：教職員のメンタルヘルス。県立鳥栖工業高校、平成22年6月29日、佐賀。
8. 佐藤 武：新型インフルエンザについて。NBCラジオ、平成22年6月30日、佐賀。
9. 佐藤 武：仕事を健康講座～メンタルヘルスケア～「ストレスの原因とひとが活きる職場環境。佐賀大学公開講座Ⅱ、平成22年7月10日、唐津市。
10. 佐藤 武：集団力を考える～発達障害やうつ病の心理相談から～。平成22年度佐賀県高等学校教育相談研究会、平成22年8月4日、アバンセ、佐賀。
11. 佐藤 武：ライフサイクルとその援助（中高年期）、いのちの電話講習会、アバンセ、平成22年8月11日、佐賀。
12. 佐賀大学保健管理センター全員：第40回九州地区大学保健管理研究協議会。グランデはがくれ、平成22年8月18日～20日、佐賀。
13. 佐藤 武：職場におけるメンタルヘルス。佐賀大学職員研修、佐賀大学、平成22年8月24日、佐賀。
14. 佐藤 武：自信がない。NBCラジオ、平成22年8月26日、佐賀。
15. 佐藤 武：教員免許更新講習会、佐賀大学医学部、平成22年8月25日、佐賀。
16. 佐藤 武：職員のメンタルヘルス。佐賀県警本部、平成22年9月1日、佐賀。
17. 佐藤 武：こころとからだの健康－30歳代－。佐賀県警察学校、平成22年9月16日、佐賀。
18. 佐藤 武：こころとからだの健康－40歳代－。佐賀県警察学校、平成22年9月24日、佐賀。
19. 佐藤 武：職員のメンタルヘルス。佐賀大学副課長研修。佐賀大学、平成22年9月28日、佐賀。
20. 佐藤 武：教職員のメンタルヘルス。県立佐賀工業高校。平成22年9月29日、佐賀。
21. 佐藤 武：こころとからだの健康－50歳代－。佐賀県警察学校、平成22年10月1日、佐賀。
22. 佐藤 武：フォーミュラー食について。佐賀県医師会健康スポーツ部会、平成22年10月3日、唐津市。

23. 佐藤 武：自殺を理解するための予備知識。佐賀市隣保館、平成22年10月4日、佐賀。
24. 佐藤 武：教職員のメンタルヘルス。県立神埼清明高校、平成22年10月18日、佐賀。
25. 佐藤 武：取調における心理状態。佐賀県警本部。平成22年10月26日、佐賀。
26. Sato T: The effect of aerobic exercise on physical and mental health. YuanPei University, Nov. 4, 2010, 台湾。
27. Sat T.: How to recover from depression without antidepressant. Taiwan Medical University, Nov 4, 2010, 台湾。
28. 佐藤 武：フォーミュラー食について。NBC ラジオ、平成22年11月18日、佐賀。
29. 佐藤 武：自殺予防と対策について。佐賀市民生委員・児童委員の集い、マリトピア、平成22年11月19日、佐賀。
30. 佐藤 武：いきいきと仕事に向き合うために～今私たちに必要なこと～。武雄市立武雄中学校、平成22年11月26日、佐賀。
31. 佐藤 武：うつ病について。いのちの電話、メートプラザ佐賀、平成22年11月27日、佐賀。
32. 佐藤 武：最近の鬱病の特徴とその対策。佐賀大学文化教育学部教授会、平成22年12月1日、佐賀大学、佐賀。
33. 佐藤 武：みんなと遊ぼう。平成22年度 文部科学省大学等産学官連携自立化促進プログラム（機能強化支援型）シンポジウム 「子どもにやさしい佐賀」を目指した取り組み。佐賀大学産学官連携推進機構、アバンセ、平成22年12月4日、佐賀。
34. 佐藤 武：取調における心理状態。佐賀県警察学校。平成22年12月6日、佐賀。
35. 佐藤 武：メンタルヘルスとストレス解消法。佐賀税務署 「こころの健康づくり」、平成22年12月8日、佐賀。
36. 佐藤 武：教職員のメンタルヘルス。県立塩田工業高校、平成22年12月27日、塩田。
37. 佐藤 武：ホノルルマラソン2010。NBC ラジオ、平成23年1月6日、佐賀。
38. 佐藤 武：メンタルヘルスとストレス解消法。平成22年度 新人看護職員研修「研修責任者研修会」、佐賀県看護協会、平成23年1月21日～22日、佐賀。
39. 佐藤 武：メンタルヘルスをよくするにはー食事と運動療法の重要性。平成22年度健康フォーラム福岡、産業栄養指導者会、福岡朝日ビル、平成23年2月10日、福岡。
40. 佐藤 武：取調における心理状態。九州管区警察官取調研修会。九州管区警察局、平成23年2月15日、福岡。
41. 佐藤 武：大災害の時代：Brisbane と Christchurch。NBC ラジオ、平成23年3月9日、佐賀。
42. 佐藤 武：ハラスメントについて。佐賀大学工学系研究科教授会、平成23年3月9日、佐賀。

市民活動（佐藤）：

1. 郭 偉、伊藤奈々、佐藤 武：「メタボ・うつ解消！パワーエアロビクス」（3ヶ月コース）。佐賀新聞文化セミナー（平成22年4月1日～同年6月30日）、佐賀。
2. 郭 偉、伊藤奈々、佐藤 武：「メタボ・うつ解消！パワーエアロビクス（3ヶ月コース）」。佐賀新聞文化セミナー（平成22年7月1日～同年9月30日）、佐賀。
3. 郭 偉、伊藤奈々、佐藤 武：「メタボ・うつ解消！パワーエアロビクス」（3ヶ月コース）。佐賀新聞文化セミナー（平成22年10月1日～同年12月31日）、佐賀。
4. 郭 偉、伊藤奈々、佐藤 武：「メタボ・ロコモ・うつ解消！パワーエアロビクス」（3ヶ月コース）。

佐賀新聞文化セミナー（平成 23 年 1 月 1 日～同年 3 月 31 日）、佐賀.

鍋島キャンパス（尾崎）：

1. 尾崎岩太. ウイルス肝炎と肝炎治療助成制度：佐賀県の現状. 杵藤地区肝疾患カンファランス 2010. 4. 23. 武雄センチュリーホテル（武雄市）
2. 尾崎岩太. 佐賀県肝検診 2001-08：B 型肝炎. 佐賀 B 型肝炎地域連携懇話会. 2010. 4. 30. マリトピア（佐賀市）.
3. 尾崎岩太. 佐賀県の肝疾患の現状. 第 10 回佐賀県県民公開講座「もっと知ろう肝臓病のこと」 2010. 5. 23. アバンセ（佐賀市）.
4. 尾崎岩太. 佐賀県の肝臓-過去, 現在, 未来-平成 22 年度佐賀県医師会癌検診会肝臓部会研修会 2010. 7. 23. 佐賀県医師会成人病予防センター（佐賀市）.
5. 尾崎岩太. ウイルス肝炎の疫学と治療の現状. 大川三瀧医師会講演会 2010. 8. 4. 大川三瀧医師会館（大川市）.
6. 尾崎岩太. B 型肝炎：佐賀県の現状と治療を進めるために. 佐賀県医師会講演会 2010. 8. 6. 佐賀県医師会成人病予防センター（佐賀市）.
7. 尾崎岩太. 学校における疾病予防と保健管理. 平成 22 年度教員免許状更新講習会 2010. 8. 26. 佐賀大学医学部（佐賀市）.
8. 尾崎岩太. ウイルス性肝炎：佐賀県の現状と治療を進めるために. 肝臓撲滅フォーラム in 唐津東松浦 2010. 9. 15. 唐津シーサイドホテル（唐津市）.
9. 尾崎岩太. 佐賀の肝がん. 佐賀学講座 2010. 9. 22. 高木瀬公民館（佐賀市）
10. 尾崎岩太. 佐賀県の肝炎医療費助成制度について. 市民公開講座：C 型肝炎を治そう. 2010. 9. 25. 武雄市文化会館（武雄市）.
11. 尾崎岩太. C 型肝炎ウイルスと肝がん. 佐賀県がん予防推進事業 がん対策フォーラム. 2010. 10. 2. アバンセ（佐賀市）
12. 尾崎岩太. アレルギーの話. 多久市養護部会研修会 2010. 12. 2 南多久公民館（多久市）
13. 尾崎岩太. 佐賀県の肝疾患の現状 2010. 佐賀県肝臓撲滅フォーラム世話人会. 2010. 12. 7. ホテルマリターレ創世（佐賀市）.

この領域も日々の多忙な業務の中、地域の要請にできるだけ答えるように努力し、その成果は得られていると思われる。

V-I 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価

佐賀大学における学内の各種委員会に積極的に参加し、学内の学生および教職の問題点に保健管理センターとして、意見を述べている。それぞれの教員の参加している委員会を列記する。

佐藤 武：

保健管理センター運営委員会（委員長）・労働安全衛生委員会（委員長）・学生モニター会議委員・入試委員会・学生委員会（オブザーバー）・大学教育委員会（オブザーバー）・教育室会議委員・遺伝子組換え実験安全委員会・医学部研究科委員会・産業医・附属中学校保健委員・附属特別支援学校保健委員・施設協議会委員

尾崎岩太：

佐賀大学環境安全衛生管理室員・佐賀大学安全衛生管理委員会・佐賀大学医学部安全衛生委員会・佐賀大学医学部教育委員会（オブザーバー）・佐賀大学ハラスメント等相談委員・佐賀大学動物実験委員会・佐賀大学医学部附属病院放射線障害防止委員会・佐賀大学医学部及び附属病院エコアクション 21 委員会・佐賀大学医学部附属病院社会保険委員会・佐賀大学医学部入学試験委員会総合問題部会・佐賀大学医学部附属病院感制御部会議・佐賀大学ハラスメント相談員・佐賀大学鍋島事業場産業医

木道圭子：

保健管理センター運営委員会（委員）、本庄地区労働安全衛生委員会（委員、産業医）、本庄地区産業医、ハラスメント相談員

この領域においても、各種委員会に可能な限り出席しており、十分な役割を果たしているといえる。